

【 緊急注意報 週末は大きな調整局面となる可能性大 2022年1月20日 】

昨日の夜、Telegramグループとメールにて**注意勧告**させて頂きましたが、わかりやすく今回のリスク詳細内容について説明させて頂きます。まずはBTCの1ヶ月チャートを見てみましょう。

Bitcoin to USD Chart

...



BTC 1ヶ月チャート

Bitcoin to USD Chart

...



BTC 1週間チャート

月初のレポートでの1月の下落リストの最も考えておくべきポイントとして、**BTC価格の45,500ドル割れ**を挙げました。そしてこのポイントを下げてから下落が加速し、**40,000ドルを割れば、32,000ドル代までの急落もあり得る**という話もさせて頂きました。しかしBTCは一時的に**39,500ドルまでの下げ**をみせたものの、その後は相場も戻りましたが、ずるずると軟調な戻り売りが続いています。

1週間チャートを見ても、上昇力が非常に弱く、売り先行になっていることがわかります。リスクマネーの市場からの逃避傾向が明確であり、ある時点からの下落加速が始まった場合、相場は急落すると考えておくべきなのです。

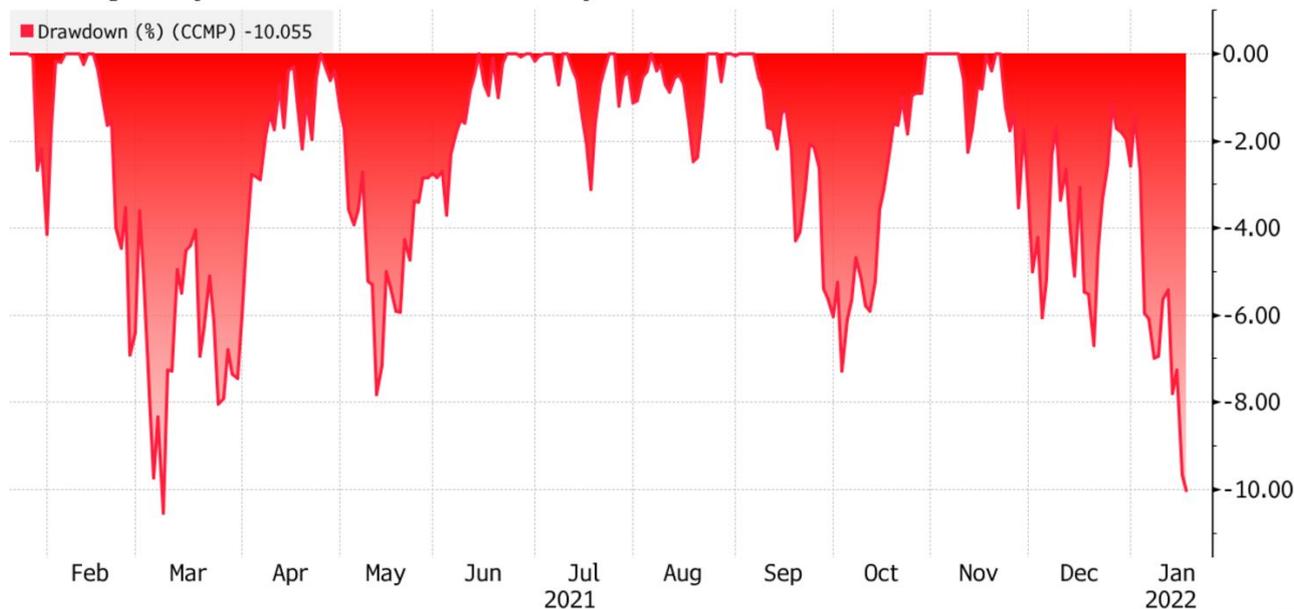
過剰流動性バブルは終焉に向かうか？

ここにきての一番の暗号通貨市場の相場下落要因は、高止まりするインフレ率にあります。インフレを抑制するために、FRBは当初6月を予定していた利上げを3月に前倒しする可能性が非常に高く、さらには**0.25%の利上げと予想されていたものが、0.5%になる可能性**が高まっています。

米国の金融引き締めが近づく中、欧米の主要マーケットに先駆けて、19日の東京株式市場で日経平均株価の下げ幅が一時900円を超えました。そして昨日のNYダウは340ドル近く下落し、NASDAQ市場は調整局面入りとなりました。

Tech Under Pressure

Nasdaq Composite declines 10% from peak



NASDAQ指数

過剰流動性バブルの終焉が近づいており、金融市場の波乱が訪れるだろうと考える要因は局面の急展開にあります。

1990年以降、米連邦準備理事会（FRB）が量的緩和を採用する前までは利下げ終了から利上げまでのインターバルは平均で約1年でした。しかしリーマンショックの時にこの状況がかわりました。

リーマンショック時は2008年12月にゼロ金利に達し、その後3回の量的緩和を経て15年に利上げに転じるまでには実に7年を要しました。この時の経験が市場に現在の金融緩和を ” **過剰流動性バブルは長期間保たれる** ” と誤解させ、投機ブームは過熱したわけです。暗号通貨市場もこの恩恵を最大に受けることができました。

今回の場合、FRBは3月の量的緩和の終了と同時に利上げに転じる公算が大きいです。今回は過去最短の緩和から引き締めへの転換となり、非常に不確実性が高い状況にあります。金利が上昇すれば、企業の借入負担は増し、企業業績上昇への足枷になりますから、特に成長株の上値は抑えられるどころか、下落する可能性が高いのです。（既にNASDAQは調整局面入りです）

日本時間22日早朝に暴落が起こるか？

米株式市場では個別株や株価指数のオプション取引の満期日は21日です。（日本時間の22日早朝となります。）今から1年前、空売りヘッジファンドを窮地に追い込む ” **ゲームストップ騒動** ” が起こりました。暗号通貨市場では**ドッジ・シバコインなどのミーム銘柄が急騰**しました。



ゲームストップ 1年チャート

ゲームストップ株の急騰は、個人のオプション取引が要因でした。個人による大量のコール（買う権利）買いが満期を迎えるわけですが、投資家にコールを販売した証券会社がヘッジ目的で保有している現物株が不要になり、21日の市場で大量に売りに出され可能性は高く、これによってゲームストップの株価は急落する恐れがあります。

急騰前の価格は20ドル以下でしたが、その後500ドル近い高値まで上昇し、現在の価格は106.57ドルです。現在価格の半値以下まで一気に下落するようなことになれば、市場の狼狽売りは加速するでしょう。

膨らんだ信用取引が手じまい売りに回る

アメリカの金利が上昇すると信用取引のコストがかさみ、売買の回転がきかなくなると個人の手じまい売りが増えることとなります。マージンデット（証拠金債務）と呼ばれる米国の信用取引の買い残高は21年12月に、9100億ドル（104兆円）と歴史的な水準にあります。

現在、投資家の借入金利は年に約6～8%ですが、当然のことながら、この金利にも上昇圧力がかかることとなります。NASDAQ市場は既に調整局面入りし、信用取引は縮小ムードにある中、ゲームストップ株の急落が、個人投資家の投げ売りを誘い、NASDAQ市場の下落を加速させる可能性が高いのです。

そして暗号通貨市場はボラティリティが高くリスクマネーが流れ込む市場ですから、個人投資家の投げ売りがこのタイミングで加速する可能性が高いのです。

暗号通貨市場の継続的な下落で、特に大きな痛手を被っているのが、ビットコイン・ファンドのグレースケール・ビットコイン・トラストです。規模270億ドル（約3兆1000億円）の同ファンドは2022年に入ってこれまでで既に17%近く急落しました。下げ幅はビットコインの約9%を大きく上回っています。この状況では今のタイミングで新規の期間投資家の大規模な資金流入は考えづらく、暗号通貨市場の下落時の市場の支え役が皆無なのです。



マザーズ市場の状況も参考に！！

暗号通貨市場は成長性を買うという意味で、株式市場との連動性は、アメリカであれば NASDAQ 市場。そして日本であればマザーズを比較参考すべき点があります。そして今、日本では東証マザーズ指数が下げ止まりません。長期保有を目的とした投資資金が入らず、個人の信用取引に依存した投機性の強さから一方通行になりやすい点はまさに暗号通貨市場と同じです。投資信託や金融機関、事業法人の取引はわずかで、個人信用が市場を支配しています。マザーズといえども、上場株には資産の裏付けがあります。しかし暗号通貨には資産の裏付けなど一切ありませんから、さらに大きく下落する率、リスクが高いのです。

インフレ率の高止まり → FRBの前倒しの利上げによる株式市場・暗号通貨市場の信用膨張の収縮

オプション取引の精算 → ゲームストップ株急落 → NASDAQ急落 → 暗号通貨市場急落

たとえ今回の週末に急落が起こらなかったとしても、調整局面は確実に長引きますので、ポジションは軽くしておき、春以降からの上昇局面入りで買い直し戦略が効果的だと考えられますね。



マザーズ指数 過去6ヶ月チャート